

～ 子供に関わるすべての人へ～
家庭教育ニュースレター

家族の絆

2021年 秋 = Vol.61 =

Contents

- お小遣いをお子さんにあげよう!
家族でお金の話をしよう!!
- 思春期の子どもと一緒に
親も揺れながら生きていこう
- 5つの実践目標リレーコラム「コミュニティはあちこちにある」
- 西宮市立図書館から本の紹介



バックナンバーはこちらからご覧いただけます↑

発行/西宮市教育委員会 問合せ先/地域学校協働課 TEL0798-35-3868

お小遣いをお子さんにあげよう! 家族でお金の話をしよう!!



「いくらあげればいいんだろう?」「使い方の制限は?」「あげる? or あげない?」など子育てにおいて意外と頭を悩ませる、子供のお小遣い。どうせあげるのなら、子供にとって、学びであったり、何かメリットがあれば良いですね。

今回は、全国で金融教育の活動をされている西岡奈美さんに「お小遣い」について、お聞きしました。

お子さんにお小遣いをあげていますか? 「欲しいと言わないので」や「欲しがるものは買ってあげているので」といった理由で、渡していないご家庭も多いのですが、お小遣いを渡すことは大人になったときに、お金と上手に付き合えるようになるための訓練です。お子さんにお小遣いをあげることで得られるメリットはたくさんあります。そのいくつかをご紹介します。お小遣いをあげることで得られるメリット

①やりくりを学べる

スポーツでも勉強でも何事も突然、上手にできるようにはなりませんよね。お金も同じです。お小遣いの使い方を考えることで、より良いやりくりを学ぶことができます。ポイントは貯めると使うのバランスを取ること。お金を貯めることはもちろん大事ですが、意図的に使うことで上手に使う訓練になります。「学校で使う文具」「普段食べるおやつ」など項目を決めてお子さま自身の判断でお金を使わせましょう。

②各ご家庭のルールを伝える・考えることができる

お金に関するルールは、各ご家庭によって異なります。例えば、「お小遣いをゲーム課金に使っても良いのか?」「メッセージアプリのスタンプを購入しても良いのか?」等がそれにあたります。そんな時はご家庭の考え方を伝えるチャンスです。ご家庭の考え方をしっかり伝えましょう。それと同時に、お子さんの意見にも耳を傾け、「1か月に〇〇円まで」「〇か月に1回まで」など、双方が納得できる回答を探せるといいですね。

③お小遣いの出所は?仕事について話すきっかけになる。

お金というのは、おうちの方のどなたかが会社(もしくはお客様)から「働いてくれてありがとう」の交換で得られた対価です。おうちの方がどんなお仕事をしているのか話したことがありますか?お小遣いを渡す際に、お仕事の話をしてみましょう。「働く」ことがお金に繋がっていることを学ぶことができます。可能な限り話の内容はネガティブな内容ではなく、お仕事で出かけた先や、嬉しかった話など、ポジティブな内容がオススメです。将来について前向きに捉えてくれるといいですね。

改まってお金の話をするととなると、ハードルが高いかもかもしれませんが、お小遣いをきっかけに、家族でお金について話してくださると嬉しいです。

もし、さらに突っ込んだ話ができるのであれば、ご家庭の経済状態についても話してみましょ。お子さんが習い事を増やしても良いのか?私立学校への進学は可能か?など、限りある予算の中で、叶えられることを考えるきっかけになります。

にしおか なみ
西岡 奈美

キャサリンとナンシーの金融教育 代表

ファイナンシャル・プランナー(CFP®)。パートナーのキャサリン(竹内かおり氏)と子ども向け金融教育を展開する。愛称はFPナンシー。2021年4月から伊丹市教育委員会教育委員。



思春期の子どもと一緒に 親も揺れながら生きていこう

思春期。それは子供から大人へと成長する大切な時期です。心身共に変化が表れ、子供自身、とまどいを抱える時期でもあり、保護者は関わり方が難しい時期でもあります。

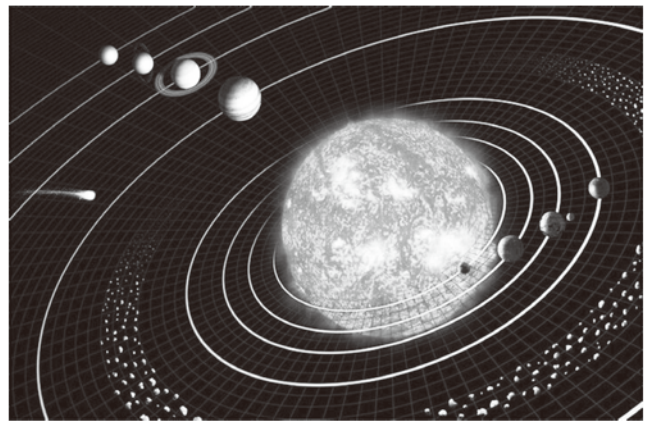
子供が思春期を迎えたとき、保護者はどう関わっていけばよいのでしょうか。

今回は「思春期の子育て」について、関西学院大学教授の藤井恭子さんにお話をいただきました。

■思春期のイラッ!はなぜ起こる?

思春期の子どもたちは、身長も体重もほぼ大人と同じようになり、中には親の背を超えるほど成長することもあります。見た目は大人なので、中身も当然大人だろうと接しがちですが、ハイテンションでゴキゲンだったかと思えば、些細なことでイラッとしたり、友達の何気ない一言に不安になってふさぎ込んでいたり、周囲がついていけないほどの感情の波が起こることも多々あり、親は戸惑ってしまいます。これは、本人の性格というよりも、思春期ならではの脳の発達に原因があることが最近の研究で分かってきました。思春期の脳は、性ホルモンの分泌が非常に活発になり、「感情の入り口」ともいわれる扁桃体を刺激することで、感情の揺れが生じやすくなります。その一方で理性や抑制や判断を司る前頭前野は未発達なために、感情をコントロールすることが難しく、いちいち大きな波が襲ってくるわけです。こうした特徴は思春期に特有のもので、やがて脳の機能が成長することで落ち着いてくるのですが、親としてはそんな風に悠長に構えることは難しく、思わず「なんなの?!」と叫びたくなります。

■子どもはいつか軌道をそれて飛び出していく



D. オースベルという青年心理学者が提唱した概念に、「脱衛星化」というものがあります。親という惑星の周囲を一定の軌道に沿って子どもという衛星が回っているという、親子の関係を捉えた表現です。この場合の軌道とは、親の教育方針や価値観を意味していて、それに沿って動いているのが児童期までの親子関係といえます。ところが思春期になると、「自分には自分の考え方がある! 親とは違う人間だ!」という子どもの自我が発達し、惑星の軌道を脱していこうとするのです。これは、いずれ子どもが成長した時に、自分自身が新たに惑星になっていくために必要なステップなのですが、軌道を逸れるエネルギーは未熟な脳の感情表出も相まって、扱いづらい「反

抗期」として親の目には映るのです。

でも、思春期以降の親子関係は、こうした子どものエネルギーに引きずられて発達していくと考えた方がよいのかもしれませんが。親にとっては幼かったころの子どもの可愛い姿を覚えているだけに、寂しさを覚えたり心配になったりして、衛星が軌道から飛び出そうとすることに少なからず抵抗を感じますね。それは自然なことです。一方子どもの側も、ただただ親に対して反発だけがあるわけではなく、実は同じくらいの強い甘えの感情があります。外で友達と喧嘩をしても、「お母さん！お父さん！」と抱きついて撫でてもらった幼い頃のようにはいかないこと、一人で何とか対処せねばならないということは、子ども自身も理解しています。何でも話をしてくれたいのに親は思いますが、それができる子どもばかりではありません。思春期の子どもたちは、自ら進んで暗く深い洞窟の中に一人で入っていくくせに、「誰かー！私のこの気持ちを理解して！」と叫んでいるのです。そのために、屈折した甘えの表現になりがちなのです。「うるさいな！分かってるよ！」という突っかかった言葉は、子どもが親に甘えているからこそ出てくる表現なのです。

■「絆」はときに足かせになる

私たちは日常的によく「絆」という言葉を使います。奇しくも、このニュースレターの名前がそうですね。ぜひここで、お手元に辞書があればこの文字の意味を調べてみてください。一般的には「きずな」と読み、断つことのできない暖かな人と人との結びつきという意味で使われています。ところが、実はこの文字にはもう一つ「ほだし」という読み方があります。これは、飼っている馬や牛などをつなぎとめておくため

の足かせを意味しています。つまり、絆は良い面だけでなく、強すぎれば時として相手の心や行動の自由を奪うものになるという面も備えているのです。このことを頭の片隅に置いておくことは、育てる側の立場にとってはとても重要なことだといえます。

子どもが思春期にあるころ、親は思秋期にあたることも多く、体調の変化や心の不安定さに悩むこともあります。春は人生の上り坂であるのに対し、秋は下り坂です。今までのように体力が続かなくなったり、ホルモンバランスの変化でイライラしたり、これまでの人生のやり残しに気がついたり、子育てという生きがい失われていくように感じたり、親もまた揺れるのがこの時期の特徴です。つまり、親も子どもも共揺れしているのです。この揺れは止めようと躍起になるとかえってうまくいかないことが多いようです。子どもではなく、秋ならではの紅葉の美しさに目を止めて高い空を見上げてみる、そんな風に視点を変えて揺れを受け流す余裕をもつ。それがかえって親も子どもも「ほだし」に縛られない「きずな」を手に入れることにつながるのではないのでしょうか。



ふじい きょうこ
藤井 恭子

関西学院大学 教育学部 教授

筑波大学大学院博士課程心理学研究科修了。博士（心理学）。専門は生涯発達心理学(青年期・中年期)および学校心理学。主なテーマは現代青年の友人関係におけるヤマアラシ・ジレンマ。心理学と教育の狭間で生きることをむねとし、20年以上教員養成を行っている。



思いやりのある西宮っ子を育てる

5つの実践目標 リレーコラム

平成23年に西宮市家庭教育振興市民会議が新たに提唱した家庭教育の「5つの実践目標」をテーマとして、家庭教育振興市民会議の委員や家庭教育関係者などに自身の体験や思いを投稿していただくリレーコラム。

今号は、5つの実践目標の中から「育てよう 優しい心と がんばる力」をテーマに、「前西宮市PTA協議会会長の根岸 直代さん」にお話をいただきました。

「5つの実践目標」

- ・育てよう 優しい心と がんばる力
- ・声かけよう おはよう ありがとう ごめんなさい
- ・見守ろう よその子 我が子 区別なく
- ・習慣づけよう 早寝 早起き 朝ごはん
- ・外に出よう 元気に遊んで 友だちいっぱい

コミュニティはあちこちにある

子供の名前には親の思いや夢が託されたものが多いです。思いやりがあって優しく、根性があるって頑張れる子に育ててほしい…。よくある親の願いです。どうしたらそんな子に育てられるか…と思悩むくらいなら、子供が興味を持ったことをとことんさせて、同じ興味を持った人が集まる所(コミュニティ)に行ってみてはどうでしょう。

コミュニティとは、一般的には、地域社会のことを指しますが、グローバル化した今ではオンライン上も含め、共通する興味を持った者同士が集う場所や集いのことも指します。

少子化かつ多様化する中、人々のニーズを地域社会だけで賄うのは難しいですが、もう少し視野を広げると、習い事や塾、オンライン上での集会といったコミュ

ニティがそれを補ってくれます。

また、個々が様々なコミュニティに属することで地域社会との接点を持つこともできます。共通する興味や目的を持った者同士が集うコミュニティで長く時間を過ごすうちに、お互い信頼関係を築き、切磋琢磨するようになります。

優しい心や頑張る力、いわゆる人間力というものは、たくさんの人と触れ合って育まれるものです。そして、人間力が養われることで、自分の存在価値を見出せるようになるのではないのでしょうか。

ねぎし なおよ
根岸 直代

前 西宮市PTA協議会会長

平成28年～令和2年度まで5年間、西宮市PTA協議会で市内のPTA活動を支援。令和元～2年度の2年間は、会長を務めた。現在は市内で地域学校協働活動推進員として活動中。



西宮市立図書館から本の紹介



このコーナーでは、本を読んでみようかなと思ってもらえるよう、特集記事などの内容に関係のあるテーマの本を紹介しています。今回は北口図書館司書 谷口陽子さんに「お小遣い」に関連する本を選んでもらいました。

子供にお小遣いを渡す？渡さない？渡すのなら、いつから？いくら？

ご家族で話し合っても悩ましい問題ではないでしょうか。しかし、自分が子供だった頃のことを考えてみると、お小遣いをもらえたとき、実際にお店で買い物をしたとき、わくわくして楽しかったことを思い出しました。今回は、親子でお金について考えるきっかけになるような本を紹介します。

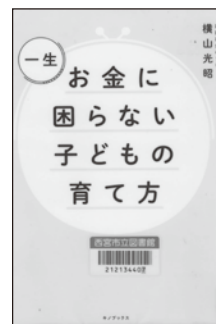
●『一生お金に困らない子どもの育て方』

この本ではお小遣いの渡し方や使い方のアドバイスに加え、子供に旅行の計画を任せてみようという提案もあります。限られた予算でどんな旅にするのか、いろいろなお金の使い方を考えることができそうです。

●『絵で見て学べる！お金ってなんだろう？』

こちらは子供向けに書かれた本です。「なんで『ピッ』ってすればお金が支えられるの？」といった電子マネーの質問への回答や、お小遣い帳の付けかたが載っています。

紹介した本以外にも、図書館では消費者としてのお悩み解決に役立つ本をご用意しています。ぜひお立ち寄りください。



『一生お金に困らない
子どもの育て方』
横山光昭／著
(キノブックス、2019年)



『絵で見て学べる！
お金ってなんだろう？』
泉美智子／監修
(インプレス、2021年)